

# 人権学習展開例

●主題名 外国人の人権問題を考える

●教材名 違いを認め、共に生きる

●人権学習の視点 個別的な視点「外国人の人権問題」

●主題・教材について

深刻な人手不足に直面する日本で、外国人労働者の受け入れが急速に進んで、ここ10年で2.5倍以上になっており、平成29年における外国人労働者の数は127万人を超えている。日本に住む外国人の中には、言葉や生活習慣の違いから、日常生活を送る上で様々な問題を抱える人がいること、また相互理解が不十分であることによる偏見や差別などの問題があることについて知り、これらの問題の解決に向けて相互に理解を深め、人権を尊重し、共生していく社会を築こうとする姿勢を育みたい。

●ねらい

日本に住む外国人住民の現状について認識を深めることで、相互に理解を深めることの大切さを再確認するとともに、人権を尊重して共に生きようとする態度を育てる。

●関連する教材

人権学習資料集＜高等学校編＞ 「12 心の国際化をめざして～外国人とともに～」

人権学習資料集＜高等学校編＞ 「13 みんなに知ってほしいこと」

●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	<b>「暗黙のルール」について考える</b>				
	○「暗黙のルール」について投げかけ考えさせる。	一斉	○ワークシート①について考える。 ○暗黙のルールが分からない人がいることに気づく。	○外国人、高齢者、障害者、子ども等が出てくると考えられる。	ワークシート①
展開	<b>外国人住民の実態を、自分にも関わりのある問題として捉える</b>				
	○活動を通して、外国人の人権問題への考えを深める。	個別 グループ	○ワークシート②の(1)により、日本に住む外国人がどのように感じているかを知り、解決策を考える。 ○ワークシート②の(2)(3)により、自他の意見を交流することで、広い視野、深い洞察からの意見をお互いに引き出す。	○国(籍)名については、クラス等の実態を踏まえて適当なものにする。 ○言葉や文字に表れない様々な可能性について想像を働かせること、当事者意識を持って方策を考えることを促す。	ワークシート②

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	○各自の感覚だけでなく、社会の実状を配付資料①②で確認させる。			○グループワークは、他の意見を聞く中で、自分の気づいていなかった偏見等にも気づく場にした。  ○出入国管理及び難民認定法改正に伴う、在留資格拡大にも触れ、外国人労働者数の増加が予想されることを助言する。	配付資料① 配付資料②
	○互いを尊重する態度の必要と、それを獲得することの大切さに気付かせる。  ○必要な行動について配付資料①を利用して考えさせる。		○ワークシート②の(4)により、自分の意見や考えを深化させる。	○相互に改善してもらうことがある場合に、どのようにするのも考えさせたい。  ○抽象的な心がけだけに留まらず、具体的に考えさせる。	
まとめ	○本時の学習を振り返り、まとめる。		○共生社会の実現について考えをまとめ、これからの学校生活、社会生活で生かせることを考える。	○これまでの友人関係等を振り返らせてもよい。	

**共生社会の実現に向けて必要なことを把握する**

●評価

- ・日本の外国人住民の現状について認識を深めることができたか。
- ・相互に理解を深め、人権を尊重して共に生きようとする態度を身につけることができたか。